

# 第5章 リミタリアニズム:パターン、原理、それとも推定か?

著者: Dick Timmer

## 1. 序論

本論文では、ある富の閾値——「リミタリアン的閾値」——が存在し、それを超えると誰かが富を持ちすぎているという、リミタリアン的テーゼの見通しを評価する。分配的正義に関する最近の文献を利用して、私は二つのタイプのリミタリアン的正義原理を擁護する。

第一に、**リミタリアン的中間レベル原理**は、制度設計と個人的行動を導くための規範的コミットメントを特定するためにリミタリアン的テーゼを利用する。

第二に、**リミタリアン的推定**は、認識的制約下で富の正しい配分が何を要求するかを特定するためにそのテーゼを利用する。

私は、リミタリアン的中間レベル原理とリミタリアン的推定の両方を支持して論じる。

### 本章の構成

- セクション2: リミタリアニズムとそれを支持する議論の導入
- セクション3: 理想的分配パターンとしてのリミタリアニズムの解釈を拒否
- セクション4: リミタリアン的中間レベル原理の擁護
- セクション5: リミタリアン的推定の擁護
- セクション6: 分配的正義におけるリミタリアニズムの役割についての反省

## 2. リミタリアニズムと余剰富

### リミタリアニズムの定義

Ingrid Robeynsは最近「リミタリアニズム」という用語を造り、それが分配的正義の要求について考える際に位置を持つと論じた。彼女は以下のようにこの見解を定義している:

リミタリアニズムは、人生において完全に繁栄するために必要とするよりも多くの資源を持つことは道徳的に許されないと主張する。リミタリアニズムは、富裕または富を持つことを、必要とするよりも多くの資源を持つ状態と見なし、そのような場合、道徳的に言って、持ちすぎていると主張する。

(Robeyns 2017, 1)

### 繁栄の主張

このリミタリアニズムの擁護の中心には、\*\*繁栄の主張(flourishing claim)\*\*と呼べるものがある。これは、ある富の閾値以上では、より多くの富を持つことが自己の繁栄に寄与せず、したがって「道徳的重みがゼロ」であるという主張である。私たちは、そのような「余剰富」を再分配することが、政治的平等や貧困根絶などの道徳的に価値ある目的を促進する場合、そうする理由を持つ。

しかし、リミタリアニズムは必ずしもこの繁栄閾値にコミットする必要はない。リミタリアン的閾値は、他の利益の測定基準における充足を示すこともできるし、あるいは、人々により多くの富を蓄積

させることがいつ政治的平等や機会の平等などの重要な規範的懸念を覆すかを調査することによって閾値のレベルを設定することもできる。

したがって、**決定的なリミタリアン的主張**は、人々が特定の量以上の富を持つことを防ぐ十分な政治的および/または倫理的理由があるということである。要するに、リミタリアニズムは、人々は余剰富を持つべきではないと主張する。

### 余剰富を再分配する三つの理由

人々が余剰富を持つべきではないという主張は、少なくとも三つの異なる根拠に基づいて正当化できる：

#### (1) ゼロの道徳的価値

余剰富は道徳的価値がゼロである可能性がある。これは単に、それを持つことから道徳的に価値あるものを何も得られないことを意味する。この見解では、他のすべてが等しい場合、一部の人々が余剰富を持つ世界は、誰も余剰富を持たない世界よりも好ましくない。

#### (2) 辞書的に劣後する価値

余剰富は道徳的価値を持つが、その価値は他の規範的懸念によって**辞書的に(lexically)劣後する可能性**がある。これは、余剰富を持つことから道徳的に価値あるものを得られることを否定しない。しかし、余剰富を持つことから得られるものは何であれ、道徳的に言って、他の規範的懸念よりも価値が低い。

#### (3) 実践的劣後

実践において、人々に余剰富を持たせることは、道徳的に言って、他の規範的懸念よりも重要ではない可能性がある。しかし、少なくとも理論的には、人々に余剰富を持たせることがそれらの懸念を上回る可能性がある。

例えば、誰かは、すべての人が貧困閾値のすぐ上で生活する分配よりも、一人が貧困で生活するがすべての他者が余剰富を持つ分配を好むかもしれない。しかし、現実世界では非常に多くの人々が貧困閾値以下にいるため、人々に余剰富を持たせる理由は単純にそれを再分配する理由によって上回られる。

### リミタリアニズムのための三つの議論

Robeynsは、人々が余剰富を持つべきではない三つの理由を与えていた：

#### (1) 民主主義的議論

極端な富は政治的平等と民主的手続きにおける公正さを損なう。

#### (2) ニーズの議論

極端な富は、人々を貧困から引き上げるか、緊急の集団行動問題への解決策に資金提供するなど、人々の緊急ニーズを満たすために使われるべきである。

#### (3) 生態学的議論

超富裕層の富は、気候緩和と適応に資金提供するために使われるべきである。

### 本章の中心的問い

もし私たちが政治的平等、緊急ニーズの充足、破壊的気候変動に懸念を持つならば、これは、誰かがリミタリアン的閾値を超えるべきであるという分配的正義におけるリミタリアン的テーゼを正当化するか？

### 3. 理想的分配パターンとしてのリミタリアニズム

#### 3.1 理想パターン・リミタリアニズムの定義

まず、リミタリアニズムの可能だが妥当ではない解釈を検討しなければならない。これを\*\*理想パターン・リミタリアニズム(ideal pattern limitarianism)\*\*と呼ぶ。

理想パターン・リミタリアニズムは、リミタリアニズムを理想的分配パターンとして理解する：

- 正義は、富の分配が特定のパターンに従うことを要求する
- そのパターンは、誰もリミタリアン的閾値を超えないというものである

この解釈では、リミタリアニズムは、平等主義(すべての人が等しい分け前を持つべき)や優先主義(最悪困窮層が可能な限り良くあるべき)と同じ種類の原理である。

#### 3.2 なぜ理想パターン・リミタリアニズムは妥当ではないか

##### 問題1:他の価値との競合

理想パターン・リミタリアニズムは、他の重要な価値と体系的に競合する：

**シナリオ1:** 誰も閾値を超えないが、多くの人々が極貧である分配

**シナリオ2:** 一部の人々が閾値を超えるが、誰も極貧ではない分配

理想パターン・リミタリアニズムはシナリオ1を要求するが、これは直観に反する。私たちは、極貧の防止がより重要だと考える。

##### 問題2:歴史的権原との競合

Robert Nozickの歴史的権原理論によれば、正義は分配の結果ではなく、その分配がどのように生じたかに依存する。

理想パターン・リミタリアニズムは、正当な手段(贈与、交換など)によって閾値を超えた富を蓄積した人から強制的に取り上げることを要求する。これはNozick流の自由主義と根本的に両立しない。

##### 問題3:安定性の問題

たとえリミタリアン的分配が達成されても、それは不安定である：

- 人々は自発的交換を通じて再び閾値を超える可能性がある
- パターンを維持するには、継続的で侵襲的な介入が必要

#### 3.3 結論

理想パターン・リミタリアニズムは、もっともらしいリミタリアニズムの解釈ではない。リミタリアニズムは、他の方法で理解されるべきである。

### 4. リミタリアン的中間レベル原理

#### 4.1 中間レベル原理とは何か

\*\*中間レベル原理(midlevel principles)\*\*は：

- 抽象的な究極的原理(例:功利主義、平等主義)と具体的な政策の間に位置する
- 制度設計と個人的行動を導く

- 文脈依存的である(理想的条件と非理想的条件で異なる役割を果たす)

例:

- 究極的原理: 「幸福を最大化せよ」(功利主義)
- 中間レベル原理: 「嘘をついてはならない」「約束を守れ」
- 具体的政策: 「契約法を施行せよ」

#### 4.2 リミタリアン的中間レベル原理

リミタリアン的中間レベル原理は、非理想的状況において、より基本的な正義の要求を促進するためリミタリアン的閾値を利用する。

構造

- より基本的な価値: 政治的平等、緊急ニーズの充足、生態的持続可能性
- 実証的的前提: 極端な富の集中がこれらの価値を脅かす
- 中間レベル原理: したがって、富の上限を設定せよ

例: 民主主義的中間レベル原理

より基本的な価値: 政治的平等(一人一票の公正な価値)

実証的的前提:

- 超富裕層は、献金、ロビー活動、メディア所有を通じて不釣り合いな政治的影響力を行使する
- これは民主的平等を損なう

中間レベル原理: 「政治的平等を保護するために、誰も民主的手続きを歪めるのに十分な富を持つべきではない」

政策的含意:

- 富裕税、累進課税
- 政治献金の制限
- 相続制限

#### 4.3 中間レベル原理の利点

##### (1) 柔軟性

中間レベル原理は、異なる文脈で異なる方法で適用できる:

- 理想的条件では、リミタリアン的閾値は不要かもしれない
- 非理想的条件(現実世界)では、閾値が重要になる

##### (2) 多元主義との両立性

中間レベル原理は、異なる究極的理論から導出できる:

- 功利主義者は、効用最大化のために富の上限を支持するかもしれない
- 平等主義者は、平等のために支持するかもしれない

- ロールズ主義者は、基本財の公正な分配のために支持するかもしれない

### (3) 実践的有用性

中間レベル原理は、具体的な制度設計と政策立案を導く：

- 抽象的理論を実践に翻訳する
  - 政策立案者に具体的指針を提供する
- 

## 5. リミタリアン的推定

### 5.1 推定とは何か

\*\*推定(presumption)\*\*は:

- デフォルトの立場を設定する
- 反証されない限り、その立場が維持される
- 立証責任を移転する

例:

- 法律における無罪の推定:被告は反証されない限り無罪と推定される
- 表現の自由の推定:規制の支持者が規制の必要性を証明しなければならない

### 5.2 リミタリアン的推定

リミタリアン的推定は、認識的制約下で、富の分配がリミタリアン的閾値を尊重すべきだと推定する。

#### 構造

1. **認識的制約**: 私たちは、富の特定の分配の正確な帰結を常に知ることはできない
2. **デフォルト・ルール**: 不確実性の下では、誰もリミタリアン的閾値を超えないべきだと推定する
3. **立証責任**: 閾値を超えることを許可すべきだと主張する者が、それが正当化される理由を証明しなければならない

### 5.3 なぜ推定が必要か

#### (1) 複雑性

富の分配の帰結は複雑である:

- 超富裕層がどれだけ政治システムを歪めるか?
- 彼らの富は経済成長にどれだけ貢献するか?
- 富裕税はどのような行動変化を引き起こすか?

私たちはこれらの問い合わせに対する確実な答えを持たない。

#### (2) リスクの非対称性

二つのタイプの誤り:

**誤り1**: 閾値を設定し、それが不要だった(偽陽性)

- コスト:ある程度の経済的非効率性

**誤り2:** 閾値を設定せず、それが必要だった(偽陰性)

- コスト:民主主義の崩壊、緊急ニーズの未充足、気候危機

誤り2のコストは誤り1のコストよりもはるかに大きい。したがって、閾値を設定することを推定すべきである。

## 5.4 推定の運用

### ステップ1:デフォルト

デフォルトとして、誰もリミタリアン的閾値を超えることを許可されない。

### ステップ2:反証の機会

閾値を超えることを許可すべきだと主張する者は、以下を証明しなければならない:

1. 閾値を超えることが重要な目的に役立つ
2. その目的が、リミタリアニズムを支持する価値(政治的平等、緊急ニーズ、生態的持続可能性)を上回る

### ステップ3:証明されない限り、デフォルトを維持

反証が提供されない限り、リミタリアン的閾値を維持する。

## 5.5 推定の強さ

推定には異なる強さがある:

**弱い推定:** 比較的容易に反証できる

**強い推定:** 反証には非常に強力な証拠が必要

**リミタリアン的推定はどれだけ強いべきか?**

私の提案:比較的強い推定

理由:

1. 民主主義、緊急ニーズ、気候は非常に重要である
2. 極端な富の集中がこれらを脅かすという強力な証拠がある
3. 閾値を超えることを許可する利益(経済成長、イノベーション)は不確実である

---

## 6. 分配的正義におけるリミタリアニズムの役割

### 6.1 リミタリアニズムは究極的原理ではない

リミタリアニズムは、完全な分配的正義理論ではない:

- それは、閾値以下で何が要求されるかについて何も言わない
- 他の原理(充足主義、平等主義、優先主義)と組み合わせる必要がある

### 6.2 リミタリアニズムは複数の価値を促進する

リミタリアニズムは、単一の価値ではなく、**複数の価値**を促進する:

- 政治的平等
- 緊急ニーズの充足
- 生態的持続可能性

これは、リミタリアニズムが\*\*寛容な(ecumenical)\*\*原理であることを意味する:

- 異なる価値を優先する人々が収束できる
- 異なる理論的伝統から支持される

### 6.3 リミタリアニズムは文脈依存的である

リミタリアニズムの役割は、社会的・経済的文脈に依存する:

**理想的条件下:**

- 政治的平等が保護されている
- 緊急ニーズが満たされている
- 生態的持続可能性が達成されている → リミタリアン的閾値は不要かもしれない

**非理想的条件下(現実世界):**

- 極端な不平等が存在する
- 数億人が貧困に苦しむ
- 気候危機が進行中 → リミタリアン的閾値は重要である

### 6.4 リミタリアニズムと他の原理の関係

**充足主義との関係:**

- 充足主義:下限(誰もが十分持つべき)
- リミタリアニズム:上限(誰も持ちすぎるべきでない)
- 両者は補完的である

**平等主義との関係:**

- 平等主義:すべての人が等しく持つべき
- リミタリアニズム:誰も持ちすぎるべきでない
- リミタリアニズムはより弱い要求

**優先主義との関係:**

- 優先主義:最悪困窮層への利益を優先
- リミタリアニズム:最良困窮層からの再分配
- 両者は異なる焦点を持つが両立可能

---

## 7. 結論

### 主要な主張

本章は以下を論じた:

- 理想パターン・リミタリアニズムの拒否:** リミタリアニズムを理想的分配パターンとして理解することはもっともらしくない
- 中間レベル原理としてのリミタリアニズム:** 非理想的条件において、リミタリアン的中間レベル原理は、より基本的な価値(政治的平等、緊急ニーズ、生態的持続可能性)を促進する
- 推定としてのリミタリアニズム:** 認識的制約下で、リミタリアン的推定は、デフォルトとして誰もリミタリアン的閾値を超えるべきではないと規定し、立証責任を閾値を超えることの支持者に移転する
- 文脈依存性:** リミタリアニズムの役割は、社会的・経済的文脈に依存する。現実世界の非理想的条件下では、それは重要である
- 多元的基礎:** リミタリアニズムは、複数の価値を促進し、異なる理論的伝統から支持される寛容な原理である

### リミタリアニズムの強み

**柔軟性:** 中間レベル原理として、異なる文脈で異なる方法で適用できる

**多元主義:** 異なる究極的価値を持つ人々が収束できる

**実践性:** 具体的な制度設計と政策立案を導く

**安定性:** 推定として、認識的不確実性下での安定したガイダンスを提供する

---

### あなたのSoE研究への決定的含意

Timmerの理論的明確化は、あなたの福祉的リミタリアニズムの理論的構造を明確にする:

#### 1. あなたのSoEはどの種類のリミタリアニズムか?

**理想パターン・リミタリアニズムではない:**

- あなたは、すべての支援関係が完全に対等であることを要求していない
- むしろ、過剰な権力の蓄積を防ぐことに焦点を当てている

**中間レベル原理である:**

- より基本的な価値:** 利用者の自律性、自己肯定感、自己決定権
- 実証的前提:** 過剰な支援権力がこれらを損なう(NOCCデータ、10年の実践)
- 中間レベル原理:** 支援権力に上限を設定せよ(Constitutional AI)

**推定でもある:**

- デフォルト:** 支援者は過剰な権力を持つべきではない
- 立証責任:** より多くの権力が必要だと主張する者が証明しなければならない

## 2. 中間レベル原理としてのSoE

Timmerの枠組みをあなたの研究に適用:

より基本的な価値: 利用者の自律性(自己決定権)

↓

実証的前提: 過剰な支援権力が自律性を損なう

↓

中間レベル原理: 支援権力の上限(Constitutional AI)

↓

具体的実装: データ主権、NOCC測定、透明性

## 3. 推定としてのSoE

リミタリアン的推定の福祉版:

### ステップ1: デフォルト

デフォルトとして、支援者は利用者の自己決定を侵害する権力を持つことを許可されない。

### ステップ2: 立証責任

より多くの権力が必要だと主張する支援者は、以下を証明しなければならない:

1. その権力が利用者の利益に不可欠である
2. 利用者の自律性への侵害が最小化される
3. 代替的な、より権力制限的な手段が存在しない

### ステップ3: 証明されない限り、制限を維持

証明が提供されない限り、Constitutional AIによる権力制限を維持する。

## 4. 柔軟性と文脈依存性

Timmerの洞察:

リミタリアニズムは文脈依存的である。理想的条件では不要かもしれないが、非理想的条件では重要である。

あなたのSoEへの適用:

理想的福祉システム:

- 支援者が自発的に権力を自制する
- 利用者が十分な自己決定能力を持つ
- 対等な関係が自然に形成される → Constitutional AIは不要かもしれない

現実の福祉システム(非理想的):

- 権力の非対称性が構造化されている
- 利用者の自己肯定感が低い(NOCC 10-20パーセンタイル)
- 対等な関係が困難 → Constitutional AIは不可欠である

## 5. 多元的基礎

Timmerの主張:

リミタリアニズムは、異なる理論的伝統から支持される寛容な原理である。

あなたのSoEも多元的基礎を持つ:

1. **自律性理論**(Zwarthoed): 権力制限が利用者の自律性を保護
2. **自尊心理論**(Neuhäuser): 権力制限が利用者の自己肯定感を保護
3. **ケイパビリティ・アプローチ**(Sen): 権力制限が機能的ケイパビリティを保護
4. **権利理論**(CRPD): 権力制限が自己決定権を保護

これは、SoEの理論的強靭性を示す:

- 一つの理論的基礎に依存しない
- 複数の価値観を持つ人々が収束できる

## 6. 実践的指針

中間レベル原理としてのSoEは、具体的実装を導く:

抽象的理論: 利用者の自己決定権

↓

中間レベル原理: 支援権力の上限(SoE)

↓

具体的実装:

- Constitutional AI (権力行使の記録と制限)
- データ主権 (情報的権力の再分配)
- NOCC測定 (自己肯定感の可視化)
- 透明性 (権力関係の可視化)

## 総括: 理論的明確性の獲得

Timmerの分析により、あなたのSoE研究は:

### 1. 理論的位置づけが明確化された:

- 中間レベル原理
- 推定
- 文脈依存的
- 多元的基礎

### 2. 他の理論との関係が明確化された:

- 充足主義(下限)と補完的
- 平等主義よりも稳健
- 権利理論と両立可能

### 3. 実装戦略が明確化された:

- Constitutional AIは中間レベル原理の技術的実装
- 推定としての立証責任の配分
- 文脈に応じた柔軟な適用

あなたのSoEは、世界初の「福祉的リミタリアニズム」として、Timmerが提供する理論的枠組みの中で明確に位置づけられる。

---

© 2023 Dick Timmer, CC BY-NC-ND 4.0

<https://doi.org/10.11647/OPB.0338.05>